

# 郡上八幡からの事例報告

古民家活用の複合施設事例



2023.12.15 小諸市勉強会

國學院大學観光まちづくり学部

助手 黒本 剛史

# 本日の事例報告

## 1 自己紹介

略歴

研究中のテーマとケーススタディ（伊勢・栃木）

## 2 町屋敷 越前屋の事例

地域の紹介

建物概要・活用内容

事業スキーム

## 3 郡上八幡での再生事例紹介

町家玄麟

チームまちや

町家オイデナーレ、空き家拝見ツアー



1

# 自己紹介



# 略歴



黒本剛史

- 1992 石川県小松市生まれ（東京世田谷育ち）
- 2011-2017 東京大学工学部 都市工学科  
東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻修士課程（西村研）
- 2017-2019 鹿島建設株式会社
- 2019-2020 八幡市街地まちづくり会議（岐阜県郡上市）
- 2021-2022 P.D.S.アーキテクツ一級建築士事務所
- 2022- 國學院大學観光まちづくり学部 助手 / 東京大学大学院 博士課程



# 研究テーマ

## ■ 町並み保全地域で地方自治体が取得した歴史的建造物の整備プロセス及び利活用に関する研究

- ・ 関与した郡上八幡の事例をはじめ、全国で空き家を行政が取得してまちづくり拠点として利活用する趨勢  
全国126の伝建地区のうち少なくとも69地区で事例あり
- ・ 景観保全上重要である反面、行政コスト、効果的な運営、修理など課題も多い
- ・ 整備プロセスを調査し、有効な利活用に向けて必要な要素、まちづくりにおける位置づけを明らかにしたい

## ■ ケーススタディ

伊勢市 伊勢河崎商人館



栃木市 嘉右衛門町伝建地区ガイドンスセンター



# 伊勢河崎商人館 (三重県伊勢市)

- ・敷地面積1,963m<sup>2</sup>
- ・延床面積1,058m<sup>2</sup>
- ・1999年取得、2002年開業
- ・市有、NPO法人伊勢河崎まちづくり衆へ指定管理
- ・築年：明治中期（主屋）



- ・住民団体が空き家化の情報を入手し、市に働きかけて交渉の末、公有化が実現
- ・自主財源で運営する誓約書を市と交わした（委託費は光熱費程度）

## ■ イベント活用

毎月のだいどこ市、年1回の河崎商人市の開催  
河崎「蔵くら寄席」5月・11月  
新蔵くら談義（年1回）  
商人蔵ミニギャラリー（12回/年）  
貸室による茶会等体験事業



# 伊勢河崎商人館



角吾座(ホール)



蔵(カフェ)

まちなみ館  
(歴史展示)



イベント  
スペース



蔵(一坪店舗)



# 伊勢河崎商人館 - 特徴 -

- 2002年の開館から20年経過する、公有化によるまちづくり拠点施設としての先駆的事例。
- 開館時、運営者から施設の計画策定や改修への助言。現在も景観関連の受託事業などまちづくり事業の拠点。
- 改修内容は老朽構造部材や仕上げの交換などだが、耐震基準への適合まではしていない
- 開業後、イベントや交流の拠点として活発に活用されるとともに、ヘリテージセンターとしての役割を果たしている。
- 活用に大学が協力（三重大学ポスター・模型展示、皇學館大学の史料収集・歴史解説）

- 入館者数（イベント来場者含まず）

平成20年度 13,816人、入館金額3,966,740円

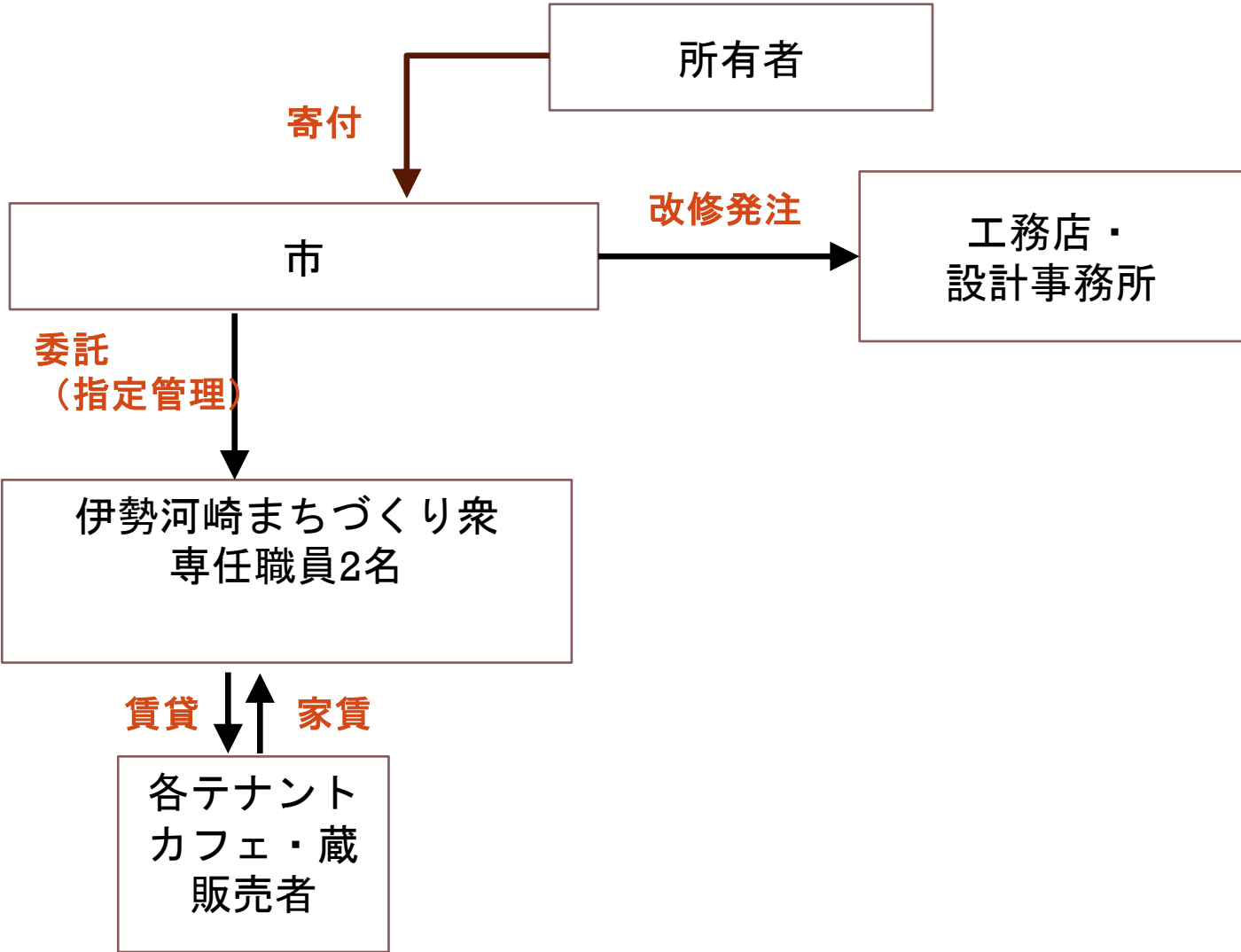
令和元年度：7,057人、入館金額2,050,160円







# 事業手法：指定管理、賃貸



# 栃木市 嘉右衛門町ガイドンスセンター

- ・敷地面積5,977m<sup>2</sup>
- ・延床面積5,543m<sup>2</sup>
- ・2016年取得、2022年開業  
(一部が先行開業済、奥は工事中)
- ・市有、NPO嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会へ委託
- ・築年：江戸末期ごろ
- ・既工事分の工事費：改修3.78億円  
トイレ新築6,600万円、交流館新築1.24億円
- ・伝建地区内の伝統的建造物候補で解体は困難  
→味噌工場としても維持が困難のため市有化を決定、未整備だった伝建地区のガイド機能・休憩所等として整備



カエモンベース外観



ガイドンスセンター内観



交流館内観（新築）



# 栃木市 嘉右衛門町ガイドンスセンター

施設全体鳥瞰図



カエモンベース外観



ガイドンスセンター内観



交流館内観（新築）



# 栃木市 嘉右衛門町ガイダンスセンター

利活用状況（2023年1月17日 栃木市蔵の街課 飯田様へのヒアリングによる）

- 市からNPO法人 嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会に委託。イベント開催費や人件費も含めて年1,008万円で委託しており、維持管理のみならず、情報発信やイベント開催など地元組織の特性を発揮して魅力向上へつなぐことを期待している。実務担当は地域おこし協力隊OGの遠藤氏。
- ガイダンスセンターの案内スタッフは10人体制で半日ごとに交代。
- コロナで様子を見ているためか、イベントを思うように実施できていないのが現状。
- 駐車場が少ない点が課題。交流館のキャパシティ上、数十台の駐車場が欲しい。
- テナントスペース（カエモンベース）は市内の工務店「松本住建」が一括で借り、アウトドア洋品店「瓦奇岳」にサブリースしている。シェアオフィスの入居者を募集中である。
- 今のところ交流館の利用は、市が主催の講演会などがほとんどで、有料利用の申込み実績は少ない。

## R3年度 イベント一覧

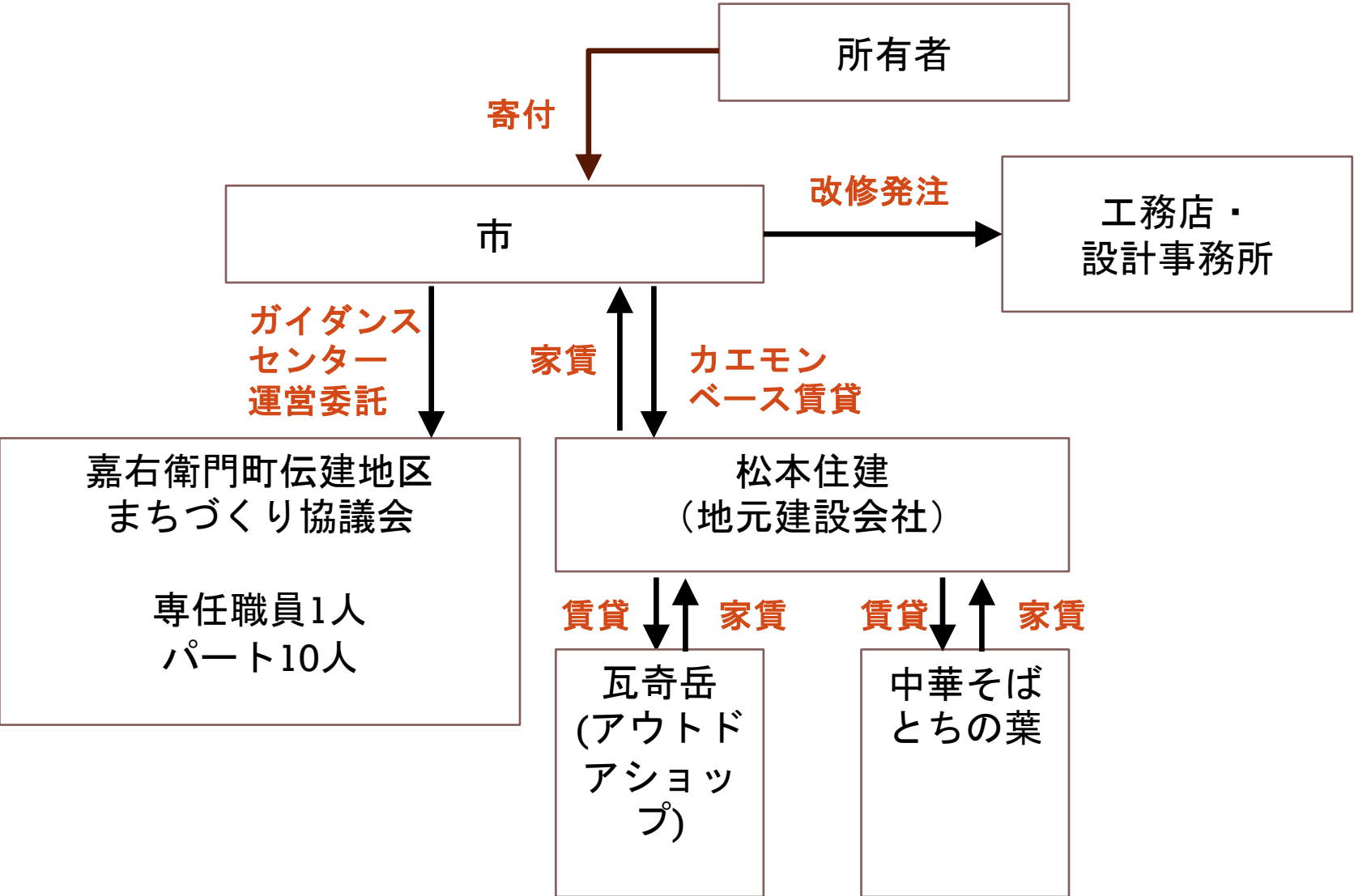
・ 7/29	: 開館式
・ 8/14～10/3	: ウラジミール・ペコフ写真展
・ 10/31	: ハロウィンパレード
・ 11/6～14	: 東武ハイキング
・ 11/6～28	: カマガワクリエイティブスクール2021
・ 11/10	: とち介 話題のスポットおしえ隊
・ 11/13～14	: 秋祭り代替イベント
・ 11/21	: 着物の日
・ 11/26	: 第3小 例幣使行列
・ 12/5～	: 宝ツシュ（R4年12月まで）
・ 2/5	: 松本住建 開店

## ガイダンスセンター入場者数

R3年度		R4年度	
10月	709	4月	761
11月	1306	5月	1038
12月	469	6月	793
1月	344	7月	396
2月	615	8月	549
3月	651	9月	1667
		10月	929
		11月	939
		12月	506
R4年合計		9,188人	



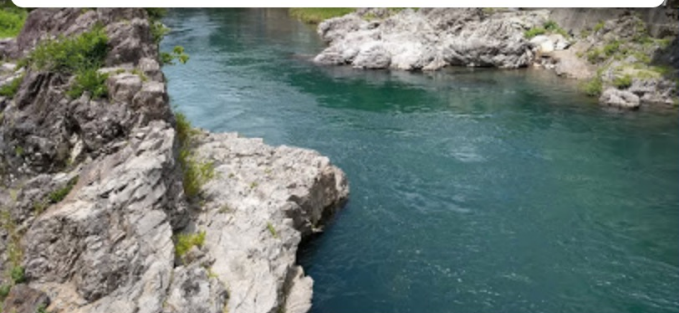
# 事業手法：委託/サブリースのハイブリッド



2

# 町屋敷 越前屋の紹介





# 郡上市

岐阜県

☀️ 晴・18°C  
13:10



ルート・乗換



保存



付近を検索



スマートフォンに送信

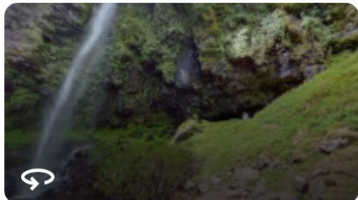


共有

## 写真



写真



写真

## 概要

郡上市は、岐阜県中部に位置する市。小京都「郡上八幡」や白山信仰の地として有名である。 [ウィキペディア](#)

## ホテル

価格について ⓘ



**岐阜県郡上（ぐじょう）市**  
人口：38,747人  
面積：1030.75km<sup>2</sup>



航空写真

# 山に囲まれた城下町・郡上八幡



八幡町五町

八幡町中坪

八幡町小野

八幡小野郵便局

郡上市立八幡中

郡上八幡城

郡上市立八幡小

郡上市民病院

町屋敷越前屋

八幡町城南町

郡上八幡

八幡町稻成

大滝鍾乳



# 郡上八幡との関わり

## ■ 初訪問と関係人口化

会社の同期の紹介で、現地を訪問

空き家プロジェクトで働く同級生に刺激を受け、町を気に入り通い始める

## ■ 2018「町家オイデナーレ」への出店

郡上八幡で年に1回、市街地じゅうの町家を活用して開かれる祭り

郡上の水の魅力を伝えるドリンク屋台を実施

## ■ 2019.5 移住





- 風景の美しい観光地  
古い街並み、水の街、郡上おどり





■ まちづくり先進地

景観整備、空家活用、移住者、コンパクトな市街地、集落部での新規創業



# 郡上八幡での業務

「郡上八幡 町屋敷越前屋」をはじめとするまちづくり事業のプロデューサー



1

「郡上八幡 町屋敷越前屋」  
立ち上げ準備



2

越前屋の日常管理



3

市内の魅力を発信する展示制作



4

イベント企画、運営、実行



## 高橋家住宅（旧越前屋）（国登録有形文化財、築130年以上）

江戸期に移り住み、金融業、蚕の販売、金物屋などを営んだ明治初期の商家  
売却の意向があり、文化財が4軒並ぶ中心地の重要な物件であったため、市が取得  
一般利用できるように耐震改修工事に着手、当初の姿を復元

総事業費は土地の購入を含め2億145万2千円（国交省空き家対策総合支援事業で1/2補助）



郡上八幡のメインストリート（新町商店街）



改修前の越前屋





2階和室 22,000円/月  
1,100円/日

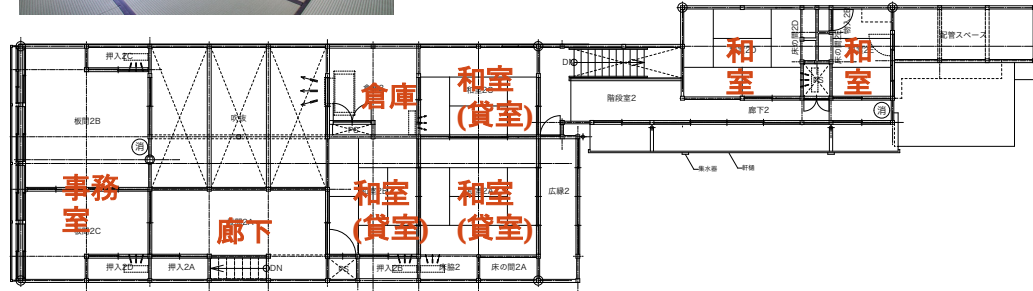
- ・テナント（着付け処）
- ・ワークスペース



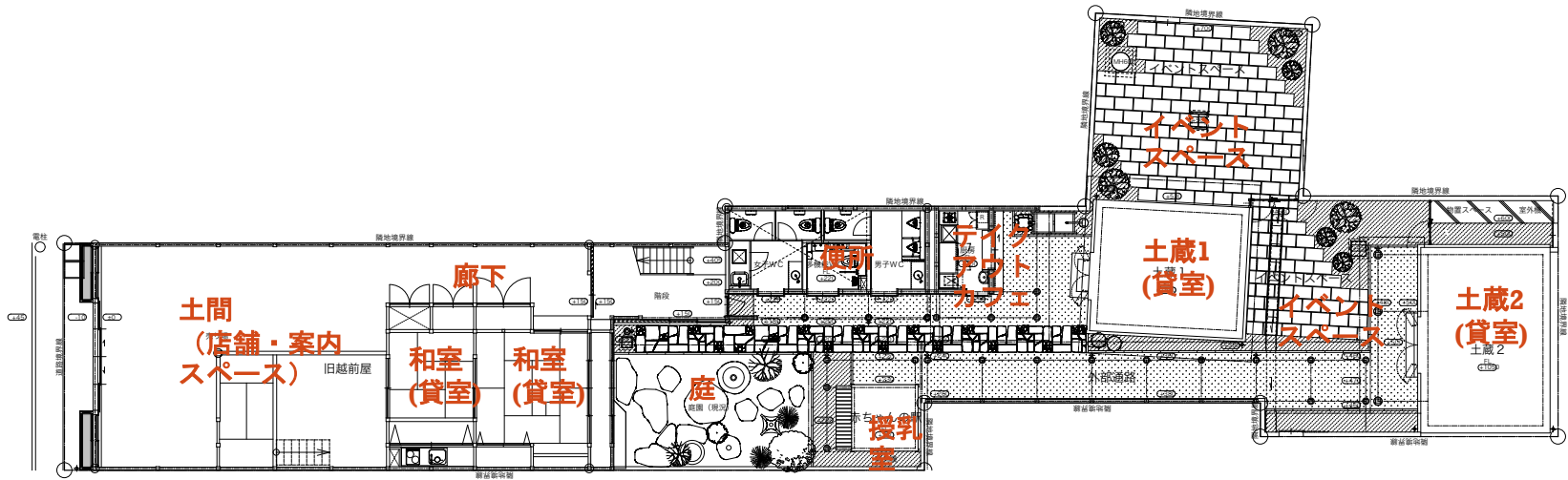
旧越  
改

イベントスペース  
・1,100円/日

2階



1階



土間 49,000円/月  
・展示物販スペースとして月替りで自主活用



土蔵1・土蔵2 22,000円/月  
1,100円/日

- ・テナント（ボードゲーム場）
- ・イベント時の絵画展示や上映
- ・未利用時は建物歴史の展示



# 郡上八幡での業務



1

「郡上八幡 町屋敷越前屋」 立ち上げ準備



1

# 「郡上八幡 町屋敷越前屋」立ち上げ準備

郡上八幡 町屋敷

# 越前屋

## 郡上八幡 町屋敷越前屋

市営のまちづくり施設として2019年11月オープン → 運営管理を受託



寄り所/拠り所

コンセプト：「まちのよりどころ」 = 住民のまちづくり・活動が生み出される拠点

- ▶ 観光客に文化財の建物を公開・案内
- ▶ 和の文化発信
- ▶ 産業振興・ものづくり文化発信
- ▶ 市民活動の拠点（部屋貸し利用）

- ・ 休館日：木曜日・年末年始
- ・ 開館時間：9時～17時





# 郡上八幡での業務



2

越前屋の日常管理



・ 総来場者数：19,561人

(2019年11月～2020年8月の10か月) 1日平均：約80人

・ 物販売上：47.2万円 (販売期間5ヶ月間の合計)



受付スタッフ雇用・労務



テナント入居者対応 (着付け処・ボードゲーム)



部屋貸し利用対応 (連句の会など)



広報活動 (月刊まちのよりどころ、SNS)



# 郡上八幡での業務



3 市内の魅力を発信する展示制作



### 3 市内の魅力を発信する展示制作



企画展はじまり (2019.11-12)



ここのらの冬くらし展 (2020.1-3)



手しごと見本市 (2020.4-6)

- 1~2ヶ月ごとに展示を入れ替え
- 郡上市の資源を紹介する企画を考案し  
取材、写真撮影、物品収集、執筆、  
パネル作成などにより展示を製作
- テーマに関連した市内産品の物販





ほくくつ郡上八幡 (2020.7-8)



越前屋展 (2019.11-)



木工展 Wood Valley2020 (2020.9-10)



# 郡上八幡での業務



4

イベント企画



4 イベント企画、運営、実行

「ものづくり」「産業振興」  
「コミュニティ形成」につながるイベント  
を企画実施



藍染ワークショップ



郡上節を唄う会



まちなか子どもひろば



下駄づくりワークショップ



観光客の案内機能は持つものの  
「住民のための施設」「まちづくりの拠  
点」であることを重視



着付けショー



新春書き初めコーナー



まちなか古本市



もち花づくりワークショップ





# ビジョンを描く まちのコンパス



- まちの声を聞く  
町内全戸対象のアンケート結果、ヒアリングの記録



- まちの未来を描く  
意見やヒアリングを踏まえたまちづくり計画案（八策・リーディングプロジェクト）の提案

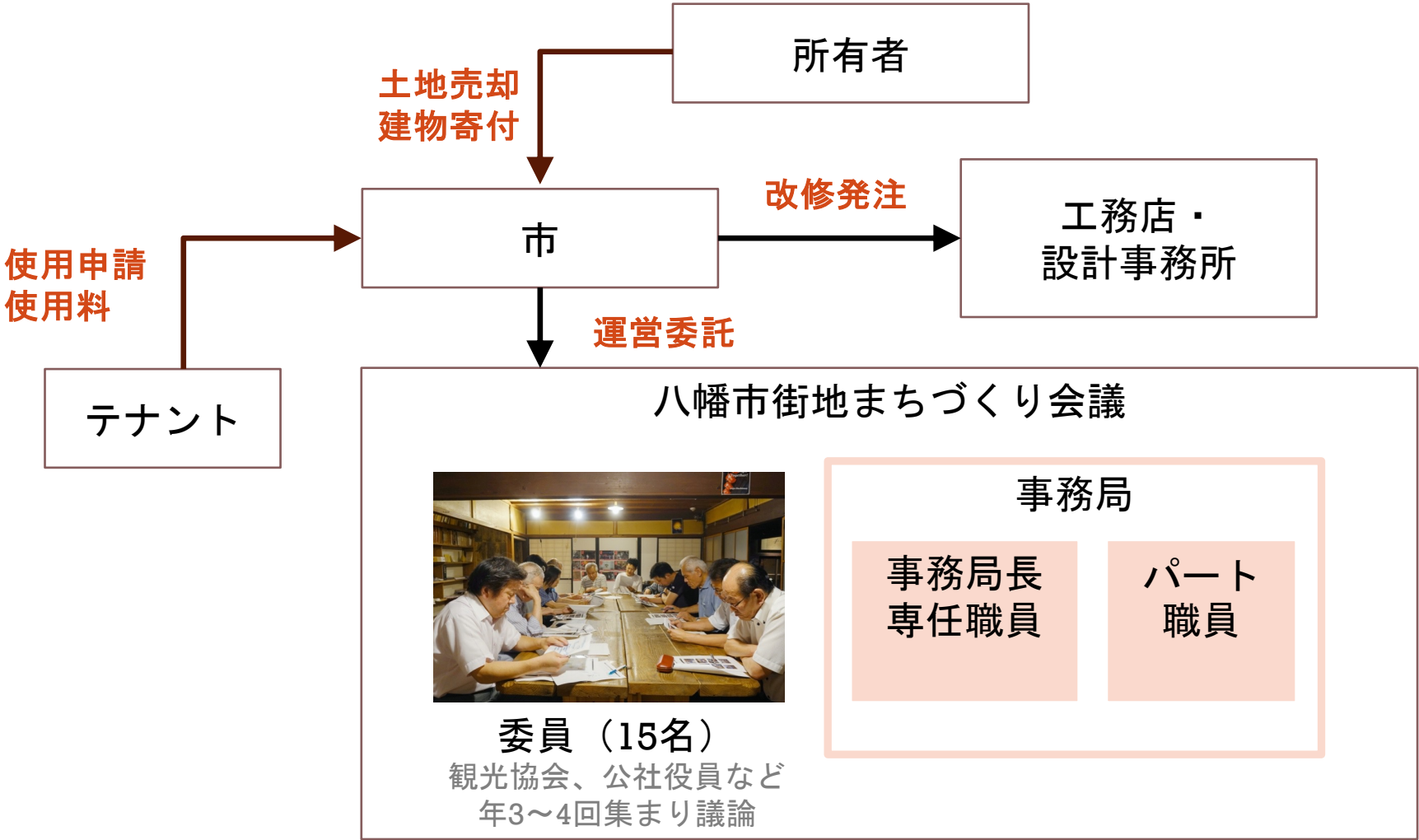


- まちを動かす  
越前屋の活用中心とするプロジェクト実施状況の報告





# 事業手法：公有化・委託方式



3

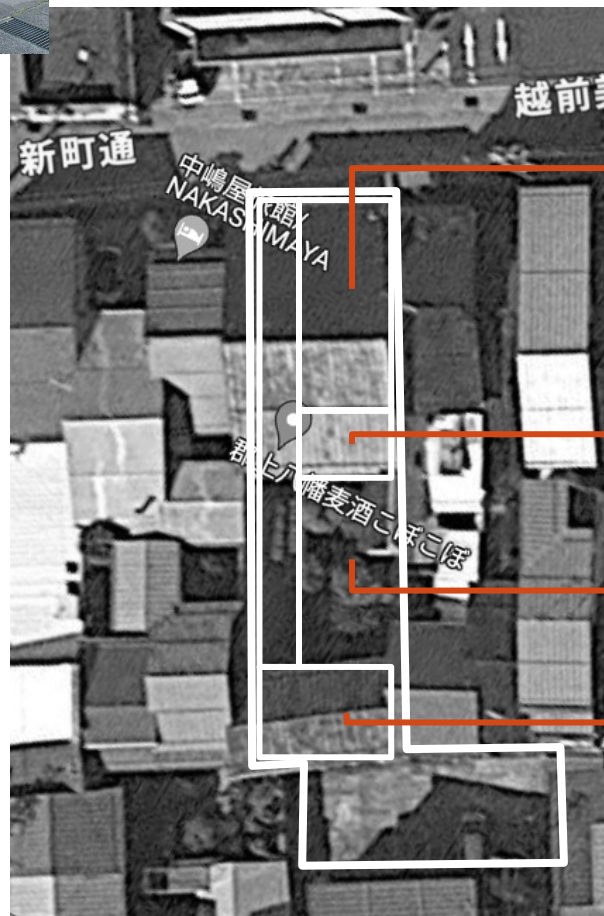
# 郡上八幡での再生事例紹介



# 町家再生の事例 - 玄麟 -



- 構造・木造2階建て
- 敷地面積・504.9m<sup>2</sup>
- 床面積・300m<sup>2</sup>
- 建築年・1933年頃
- 郡上八幡産業振興公社が町家の保全活用推進のため、平成23年に購入、テナントに分割して賃貸



炭火焼き玄麟

2F Goodjoblab  
B1F 醸造所

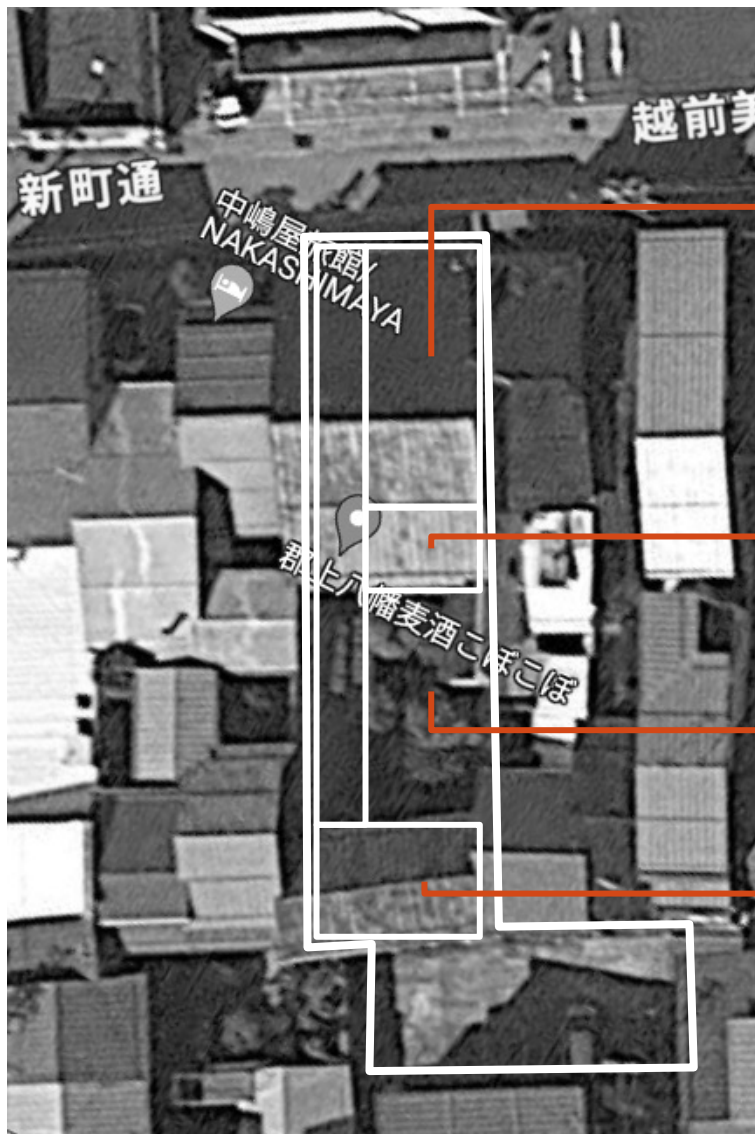
こぼこぼ  
(クラフトビール)

中庭

1F NPO水の学校  
2F チームまちや



# 町家再生の事例 - 玄麟 -



炭火焼き玄麟

2F Goodjoblab  
B1F 醸造所

こぼこぼ  
(クラフトビール)

中庭

1F NPO水の学校  
2F チームまちや



# 町家再生の事例 - 玄麟 -

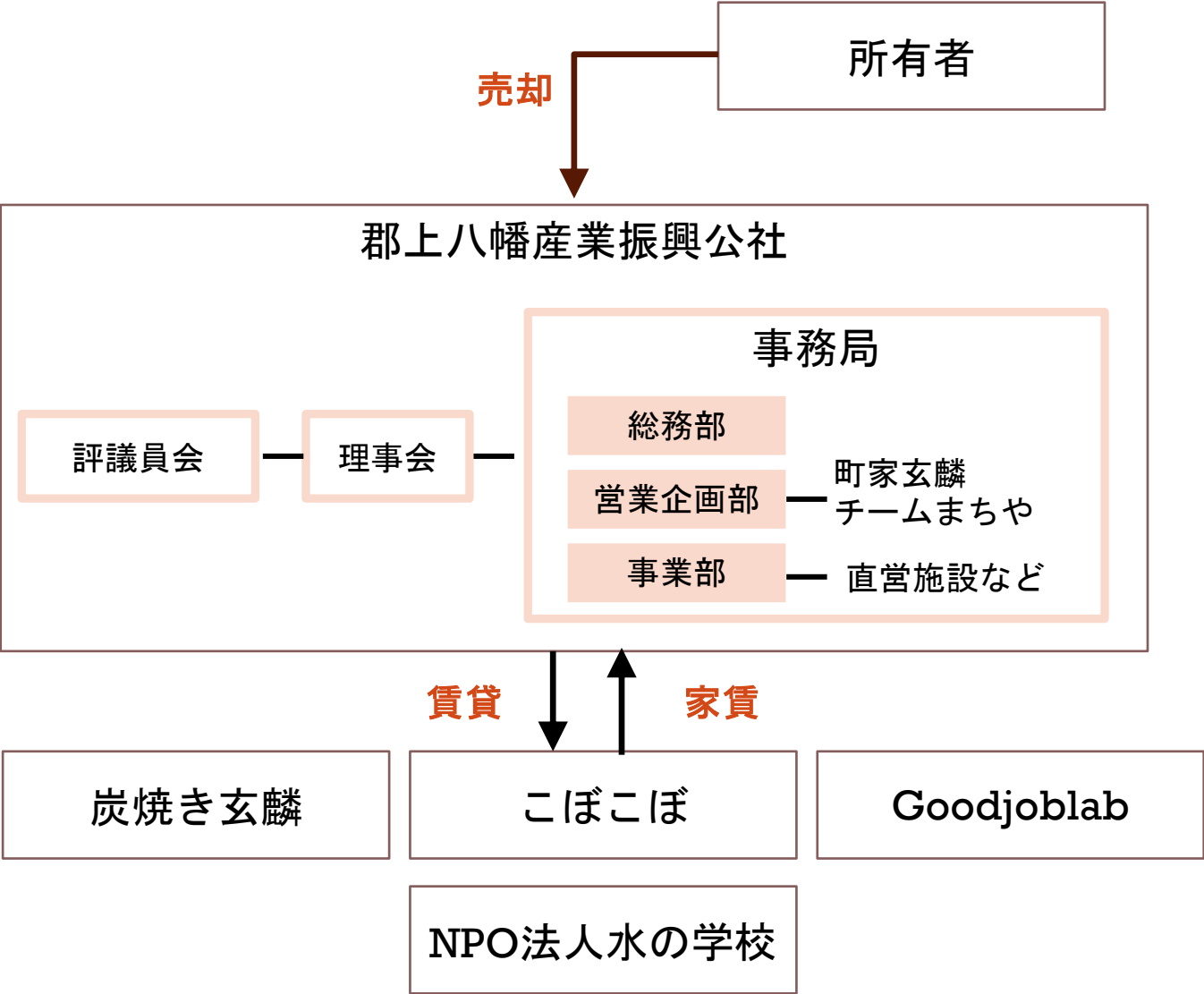


- ・ 町家玄麟の再生のポイント  
商店だけでなくクリエイターの  
オフィス（チームまちや、  
goodjoblab）があり、縁側の  
ある中庭に集うことで日常的  
でクリエイティブな会話がお  
こる
- ・ 誰が入るか、が大きい

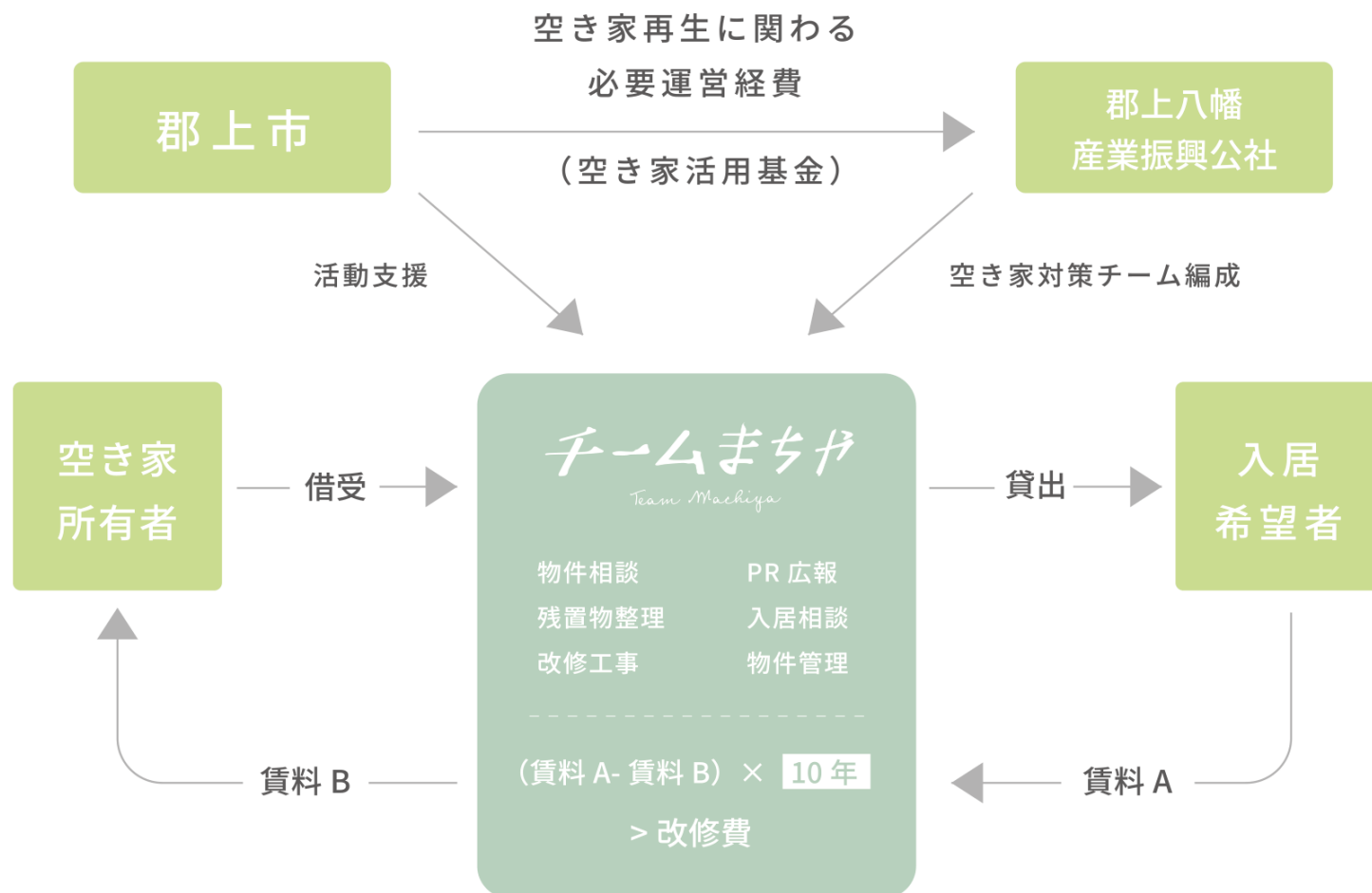




# 事業手法：買収・賃貸



# 郡上八幡「チームまちや」-事業手法-



- 空き家所有者から建物を借り、移住者・新規開業者へ賃貸（サブリース方式）
- 10年間の家賃差額により改修費用・維持費をまかなう（→最大500万円程度の小型の町屋再生が中心）
- 基金をもとに、年間5件の再生を目指す
- ポイントは、機動力のある若い人材と顔のきく地元人のコンビネーション、人件費の確保と建築知識の習得





# 郡上八幡「チームまちや」-改修事例-

改修事例1



フローリング化  
敷居撤去（一室化）  
吹抜新設



改修事例2



水回り室内化  
UB新設  
洗面台新設



改修事例3



フローリング化  
キッチン化  
階段新設



# 空き家拝見ツアー



- 年3回、町中の空き家をまとめて内覧できるツアー
- 町歩き後、移住窓口の「ふるさと郡上会」との相談も可能
- チームまちやにとって、移住希望者・出店希望者との接点




# 町家オイデナーレ



- 「かつてのあたりまえ、あしたのあたりまえ」をコンセプトに、町中の町家を活用して行われる祭り
- 2015年に初開催、手弁当で開催されながら規模を拡大している
- 町家所有者の意識づけ・潜在的な出店者の発掘として意味が大きい



A long, empty street in a traditional Japanese village. The street is paved and runs straight towards a torii gate in the distance. On either side are traditional wooden buildings with dark roofs and white walls. The background shows a hillside with autumn foliage. A utility pole with a yellow and black striped base is visible on the right side of the street.

ご清聴ありがとうございました。

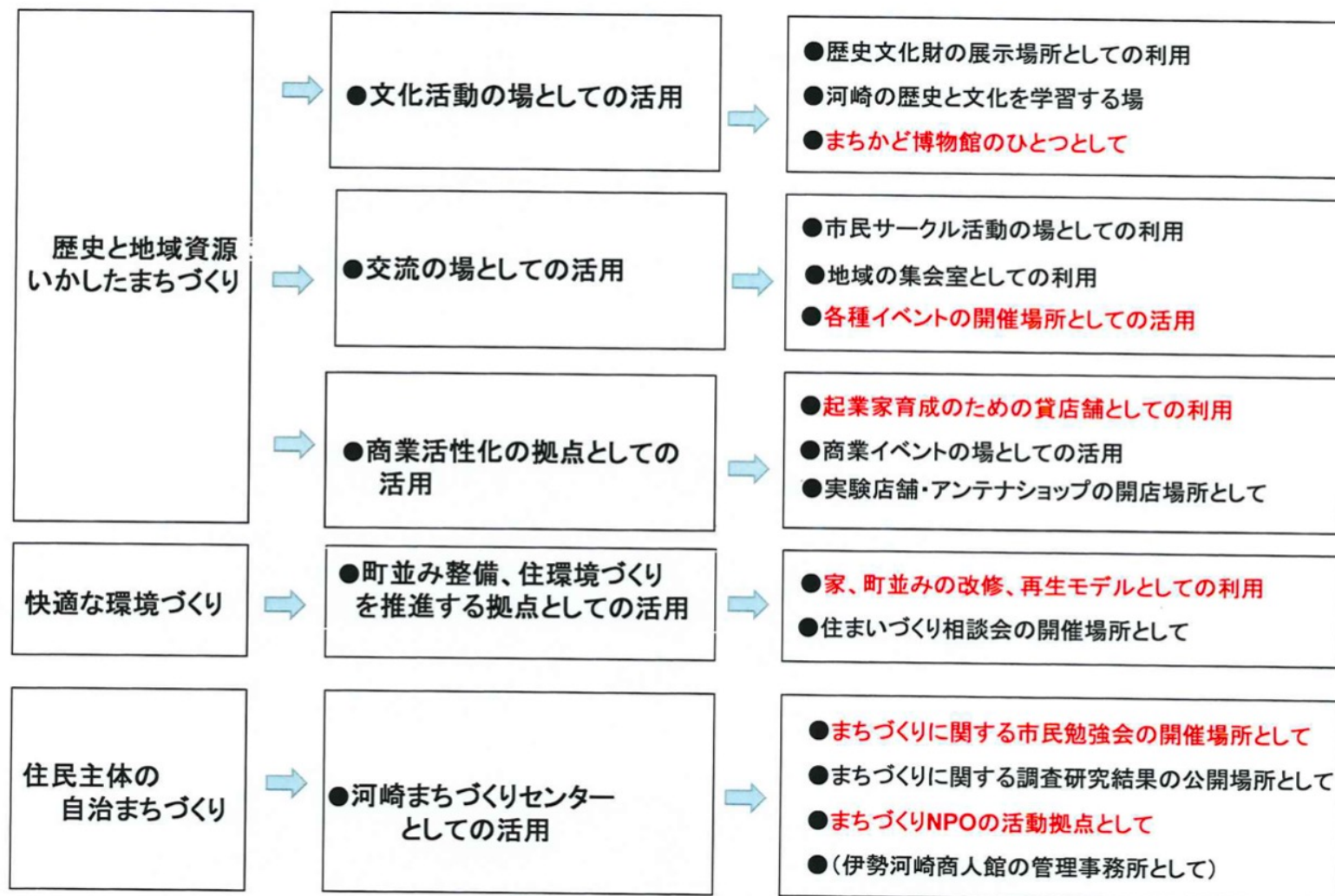
# 第3章 調査結果 ②伊勢河崎商人館

施設概要	所在地	三重県伊勢市河崎2-25-32
	市内の伝建地区有無	無
	歴まち認定有無	無
	文化財指定	国登録有形文化財（平成13年8月など）主屋など12件
	解説文	伊勢河崎商人館は河岸問屋街の河崎にある旧株式会社小川商店の一連の施設。主屋は、2階建、切妻造・妻入で、屋根は本瓦葺である。正面が街路に対して鍵型に突き出ているため、壁面を下見板で囲った特徴ある外観と相俟って、独特な景観を創り出している。
	築年	明治中期（主屋）
	規模	敷地面積1,962.79m <sup>2</sup> 、延床面積1,057.86m <sup>2</sup>
整備経緯	所有者	伊勢市
	旧用途・屋号	旧小川酒店
	取得年月	平成11年1月
	取得費用	
	開業年月	平成14年8月25日
運営概要	設置条例制定	平成14年4月 伊勢市河崎商人館の設置および管理に関する条例
	委託形態	指定管理（平成18年9月～） 指定管理料5,756千円/年、5年単位
	運営者	NPO法人 伊勢河崎まちづくり衆
	施設利用目的	1.歴史的建造物の保存・公開による文化的活用 2.市の新たな交流拠点としての活用 3.市民主体によるまちづくり活動の拠点としての活用
改修工事	改修時期	平成11年度～平成14年7月31日
	改修の内容	構造部材の一部交換、仕上げの交換、まちづくり施設の用途のための改修、便所新築 ※現行の耐震基準への適合は行っていない
	設計・施工者	
	工事費	



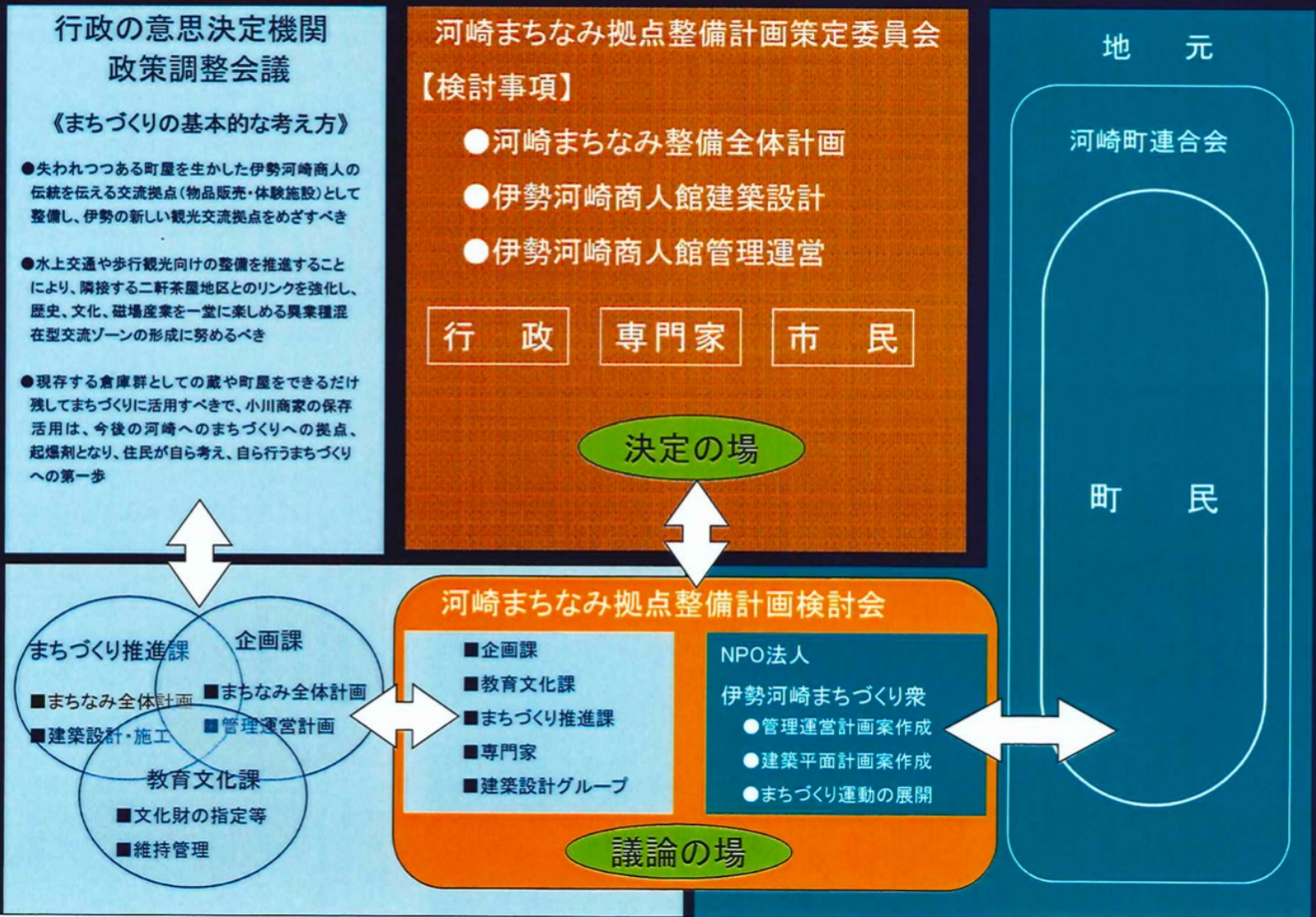
# 第3章 調査結果 ②伊勢河崎商人館

## ■伊勢河崎商人館の活用方針



# 第3章 調査結果 ②伊勢河崎商人館

## ■伊勢河崎商人館整備計画策定体制



## 第3章 調査結果 ②伊勢河崎商人館

### 伊勢河崎まちづくり衆の活動の現在

#### 河崎地区の町並み保全活動

- ・河崎らしい歴史的景観の保全創出、町並み景観づくりの手引き書の作成
- ・景観重点地区指定に向けた景観まちづくり

#### 河崎地区の歴史的空家・空蔵の保存活用事業

- ・伊勢河崎商人館整備を市に要請し、管理運営を担う。
- ・仲人事業として再生活用事業に関わる。
- ・河崎町家のリノベーションまちづくりの展開

#### 商いのまちを継承したまちづくり活動

- ・商人館まちなみ広場における「だいどこ市」の開催
- ・河崎のまちなみにぎわい創出事業「河崎商人市」の開催

#### 伊勢河崎商人館の運営を核としたコミュニティの醸成

- ・勢田川観光交流軸の歴史文化交流拠点としての役割を果たし、河崎地区のヘリテージセンターとして、また地域の皆さんと観光客の交流の場、絆づくりの場として地域コミュニティの活性化を図る活動。

#### 河崎の歴史文化を育む勢田川を活かしたまちづくり

- ・勢田川流域NPOとの連携した勢田川流域の歴史文化を活かしたまちづくり。
- ・伊勢船型のみずきの運行(新船参宮)への協力





# 第3章 調査結果 ②伊勢河崎商人館

## 年度別入館者数

	入館者数(人)	入館料金額(円)	入館者数昨対比
15年度	10,123	2,791,810	-
16年度	8,117	2,286,950	80.2%
17年度	11,290	3,205,420	139.1%
18年度	12,262	3,558,310	108.6%
19年度	11,664	3,343,630	95.1%
20年度	13,816	3,966,740	118.4%
21年度	12,474	3,565,530	90.3%
22年度	12,459	3,493,680	99.9%
23年度	11,850	3,249,190	95.1%
24年度	10,222	2,883,900	86.3%
25年度	11,556	3,328,150	113.1%
26年度	10,150	2,845,870	87.8%
27年度	9,113	2,495,460	89.8%
28年度	8,506	2,361,090	93.3%
29年度	8,811	2,362,750	103.6%
30年度	8,005	2,200,300	90.9%
01年度	7,057	2,050,160	88.2%
02年度	3,631	1,063,460	51.5%
03年度	4,270	1,301,740	117.6%

### ■ 入館者数

平成20年度 13816人

入館金額3,966,740円

令和元年度：7057人

入館金額2,050,160円

※01年3月前年比35%

※02年



### 第3章 調査結果 ③栃木市嘉右衛門町 旧味噌工場

施設概要	所在地	栃木市嘉右衛門町2-11
	市内の伝建地区有無	有（伝建地区内）平成24年3月～
	歴まち認定有無	有（重点区域内）
	文化財指定	無
	解説文	-
	築年	江戸末期ごろ
	規模	敷地面積5,977.84m <sup>2</sup> 、建築面積4,543.26m <sup>2</sup> 、延床面積5,543.59m <sup>2</sup>
整備経緯	所有者	栃木市
	旧用途・屋号	ヤマサ味噌
	取得年月	平成28年6月
	取得費用	不明
	開業年月	ガイダンスセンター：令和4年7月29日 交流館：令和4年5月21日 その他部分は工事中
運営概要	設置条例制定	不明
	委託形態	運営委託（年間1,008万円）
	運営者	NPO法人 嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会
	開館曜日・時間	ガイダンスセンター：9時～18時 交流館：9時～21時（月曜定休）
	施設利用目的	ガイダンスセンター：伝建地区の紹介、観光案内、イベント カエモンベース：シェアオフィス、店舗、シェアキッチン 交流館：イベントスペース、ラウンジ 工事中部分の詳細用途は未定
改修工事	改修時期	平成30年～進行中（15年間程度か）
	改修の内容	耐震改修など
	設計・施工者	改修施工：大兵工務店（栃木市）、新築施工：入札
	工事費	ガイダンスセンター・カエモンベース：3.78億円 トイレ新築6600万円、交流館新築1.24億円

八郡  
幡上

八  
策

## 郡上八幡八策とは

人口減少、少子高齢化、AIの進化、グローバリズム。かつてない速さで変化していく社会の中で、100年後の郡上八幡を想像することは極めて困難です。

それでも、どんなに社会が大きく変化しようと、変わることのない郡上八幡の魅力を、自分たちの手で守り、創り、そして継いでいきたい。そうした郷土愛とも言える思いを込めた指針が「郡上八幡八策」です。

### 第1策

#### 自律した住民

【自治】

「まちのことは、まちに住む者が決める」という気概を持ち、郡上八幡人として受け継いできた感性と郷土愛で、ここにしかない暮らしと文化を創造し続けるまちであること。

### 第2策

#### 教学の都

【人材】

いつの時代もまちの文化や生業を引き継ぐ人材が育ち、一方では、各地から郡上八幡にしかない知恵や環境を求めて優秀な人材が集まる、最上質の教えと学びが得られるまちであること。

### 第3策

#### 統制ある体制

【体制】

まちの未来にとって必要とされる取り組みを、既存の枠組みや縦割りの組織体制の垣根を越えて、統制力を持って実行していくことのできる体制をもったまちであること。

### 第4策

#### 四季に綾なす山河

【環境】

春の桜、秋の紅葉に代表される四季の風情を綾なす風景を自分たちの手で育て上げ、清流と山々に囲われた豊かで粹美なこの土地の自然を、住民誰しもの原風景として受け継いでいく意志を持ったまちであること。

### 第5策

#### 文化醸成と萌芽の地

【文化】

郡上踊りは400年以上の歴史を持ち、文化醸成の地としての象徴となっている。その郡上踊りも、始まりは一夜の踊りであったように、これからも数百年間受け継がれていくような文化が萌芽するまちであること。

### 第6策

#### 人と人の結いの場

【交流】

人が人と人とを結び、つながった人がまた別の人と人とを結ぶ。偶然の出会いが繰り返され、世界中に郡上八幡という不思議な縁で結ばれた人たちが存在し、彼らが新たな偶然を求めて再び集まるまちであること。

### 第7策

#### 創業研磨の土壌

【生業】

清水や木材など地場材に恵まれ、かつ人材や情報が行き交い集う地の利を活かして、日本のみならず世界にも影響を与えるような工芸や技巧、アートを生み出し、さらにそれを磨き続ける土壌を持ったまちであること。

### 第8策

#### 素嬢の観光

【観光】

「素嬢(すびん)」とは本来化粧をしなくても美人であるという意味。観光客を呼び込むための観光ではなく、郡上八幡が本来持つ暮らしや食文化、風土によって、自ずと人が惹き寄せられるまちであること。

# 郡上八幡八策・リーディングプロジェクト

01

## 「つくる」を仕事に 生業プロデュースプロジェクト

背景 藍染やスクリーン印刷、木工産業など郡上八幡には地場産業や伝統技術が数多く存在しています。近年では、郡上八幡の水を使ったクラフトビールやクラフトジンを登場し、新たな地場産業になりつつあります。こうした根強いものづくりの文化、そしてそれを育む土壌や環境を最大限に活かし、新たな郡上八幡らしい生業を作り出していく仕組みが必要です。

事業 【1】多様なクラフトが集まるマルシェの開催、【2】新しい工芸・生業を産み出すイノベーションスクール開校、【3】まちなかのづくり工房の開設、に取り組みます。作り手たちがネットワークを構築し、思わぬアイデアやコラボレーションを生み出す化学反応を次々と起こし得るような環境を整備することで、土地に根付いた新たな仕事や産業をプロデュースします。

【解決を目指す課題】 働く場づくり・まちなか既存商店等事業継承策

02

## 郡上 DNA を持つ人たちと繋がる 縁ターンプロジェクト

背景 人口減少が進むこれからの時代では、単に移住者を増やすのではなく、まちを好きな人やまちのために働きたいという思いを持った人を呼び込んでくる必要があります。他方で、郡上を出て都市部で活躍している人や、「祖父が郡上出身」「いとこが郡上在住」など郡上に縁のある人たちが、全国各地に散住している状況にあります。

事業 都市部で活躍している郡上出身者や郡上に縁のある人たち、言わば郡上 DNA を持つ人たちとのネットワークを構築します。市外で生活しながら、郡上八幡のまちづくりに参加・協力できる仕組みづくりに加えて、郡上出身者にこそ担ってほしい仕事や事業を組み立てることで、より多くの郡上 DNA を持つ人たちをまちに呼び寄せ（＝縁ターン）します。

【解決を目指す課題】 移住促進・空き家活用、人口減少・少子化対策

03

## お祭りの舞台裏を知る 祭事継承に向けた現状調査

背景 郡上おどりに春祭り、花火大会にふるさと祭り。毎年、住民全員が楽しみにしている祭事が郡上八幡にはたくさんあります。それらの祭事は、郡上おどりであれば保存会、春祭りであれば実行委員会や奉賛会のように、昔ながらの組織が今なお支えて下さっています。しかし、少子高齢化、人口減少が進み、従来の形では運営が困難な状況になってきています。

事業 伝統的な祭事がこれからも住民の楽しみとして継続されていくためには、その運営方法を時代に合わせて変化させていく必要があります。そこで、まずそれぞれの祭事が、誰によって運営されているのか、どのような役割分担になっているのか、事業収支がどうなっているのか、など祭事を支えている根底の仕組みを把握するための調査を実施します。

【解決を目指す課題】 祭事と町民文化継承

04

## 100年後は春は桜、秋は紅葉の名所に まちの要所景観整備プロジェクト

背景 郡上八幡は山に囲われた狭小な土地に築かれた城下町であり、まちのどこからでも山を望むことのできる土地柄となっています。日常的には意識して眺めることは少ないかもしれませんが、ふと顔を上げた時の通りの先や、朝カーテンを開けた瞬間など、無意識のうちに山が視界に入っており、私たち住民の原風景のひとつになっていると思われます。

事業 山を美しい景観に整備していくためには、長い年月が必要になってきますが、今から始めていくことで、100年後には美しい山の風景に囲まれた暮らしのあるまちとなるでしょう。そこで、まずは城山やまちの各所から見ることのできる、風景の要所となる場所を調査に基づいて選定し、そこに桜や紅葉を植樹していくための取り組みを始めます。

【解決を目指す課題】 環境保全・景観施策

05

## 老舗と小さな商いがまちの魅力 郡上八幡の個店紹介メディアサイト

背景 喫茶店や呉服屋、釣り具屋や小料理屋など、昔ながらの老舗やこだわりある小さなお店が数多く並んでいることが、郡上八幡の大きな魅力となっています。移住してきた人たちの多くも、趣味や手しごとを小さな生業にして暮らしています。こうした暮らしと結びついた個人の商店を、まち全体で応援し、支えていけるような仕組みづくりが望まれています。

事業 老舗ならではの技術やこだわり、新店舗の商品、まちなかで開催されるイベント情報などを総合的に発信するメディアサイトを立ち上げます。個店の情報発信を支援するだけでなく、郡上八幡の暮らしを体験できるルートマップの紹介や、住民や観光客の消費行動のデータを採集するツール等としても機能させることで、戦略的な観光施策の立案にも活用します。

【解決を目指す課題】 観光と暮らしのバランス、まちなか既存商店等事業継承策

06

## まちづくりを仕事にする 新組織設立プロジェクト

背景 これまでは行政や既存の住民組織が、それぞれの分野においてまちづくりに尽力してきたことで、特に観光分野などは大きく伸びてきました。しかしながら、いずれの組織も高齢化や人材不足、活動の停滞化などの課題を抱え、また従来の縦割型の体制では対処できない問題が相次ぎ、現状を打開するには、これまではなかった体制が求められています。

事業 既存組織が今抱えている課題を解決し、また組織間を繋ぐ潤滑油の役割を果たすような新たな組織の設立を目指します。そして、その新組織はまちの課題を解決すること自体を仕事とし、これまで有志の方たちのボランティアや善意で成り立っていた体制とは異なり、責任感と継続性を持ってまちづくりを実行していく組織として育てていきます。

【解決を目指す課題】 既存組織を支える仕組みの必要性